

# 経済・金融 フラッシュ

## 小売業は、前月比 0.3%と堅調に推移 ～商業販売統計 11 年 12 月

経済調査部門 研究員 桑島 滋

TEL:03-3512-1838 E-mail: kuwahata@nli-research.co.jp

### 1. 小売業は前月比 0.3%と堅調に推移

小売業及びコンビニエンスストア販売額(増減率)

1月27日に経済産業省から公表された11年12月の商業販売統計速報によると、小売業販売額は前年比2.5%となり、11月の同▲2.2%から増加に転じた。季節調整済前月比でも0.3%の増加となった。

物価変動の影響を除いた実質値(当研究所試算値)では前年比3.7%の増加となった。

この結果、2011年の小売業は前年比▲1.2%となり、2010年の2.5%から減少に転じた。

	小売業								コンビニエンスストア販売額	
	大型小売店								前年比	前年比(既存店)
	前月比	前年比	前年比	前年比(既存店)	前年比	前年比(既存店)	前年比	前年比(既存店)		
10年10月	▲1.4	▲0.2	1.2	0.4	▲0.5	0.6	2.3	0.3	▲3.3	▲6.0
11月	2.0	1.5	0.5	0.1	▲1.5	▲0.4	1.8	0.5	3.4	0.7
12月	▲4.2	▲2.1	▲1.6	▲1.7	▲2.6	▲1.5	▲0.7	▲1.8	5.4	2.8
11年1月	4.0	0.1	▲0.6	▲0.7	▲3.0	▲1.1	0.9	▲0.4	7.1	4.5
2月	0.8	0.1	1.0	0.5	▲1.1	0.6	2.1	0.4	8.5	5.9
3月	▲7.6	▲8.3	▲6.5	▲7.5	▲15.4	▲15.0	▲1.2	▲3.0	9.1	7.2
4月	4.1	▲4.8	▲0.9	▲1.9	▲2.4	▲1.8	▲0.1	▲1.9	3.0	1.0
5月	2.4	▲1.3	▲1.3	▲2.5	▲2.4	▲2.6	▲0.8	▲2.4	7.3	5.1
6月	2.9	1.2	0.4	0.5	▲0.3	0.1	0.8	▲0.8	10.9	8.3
7月	▲0.3	0.6	1.8	0.8	▲0.2	▲0.4	3.1	1.5	11.4	8.9
8月	▲1.7	▲2.6	▲1.8	▲2.6	▲2.4	▲2.1	▲1.5	▲2.9	9.1	6.6
9月	▲1.4	▲1.1	▲2.4	▲3.6	▲2.6	▲2.8	▲2.4	▲4.0	▲1.8	▲4.1
10月	1.4	1.9	▲0.5	▲1.4	▲0.8	▲0.8	▲0.3	▲1.7	16.4	13.5
11月	▲2.0	▲2.2	▲1.6	▲2.5	▲2.2	▲2.2	▲1.2	▲2.7	10.5	7.3
12月	0.3	2.5	0.5	▲0.4	0.6	0.7	0.5	▲1.0	7.4	4.0

(資料)経済産業省「商業販売統計」

業種別では、自動車小売業が前年比14.9%と、11月(同19.8%)に続き大幅増加となった他、織物・衣服・身の回り品小売業が前年比4.4%(11月:同2.4%)、燃料小売業が前年比5.7%(11月:同1.1%)となるなど、8業種中6業種で増加した。一方、機械器具小売業は、前年比▲9.9%と、薄型テレビの駆け込み需要の反動などから引き続き減少している。

寄与度別では、機械器具小売業が▲0.6%ポイント販売額を大きく押し下げたものの、自動車小売業が1.2%ポイント、燃料小売業が0.6%ポイント、織物・衣服・身の回り品小売業が0.4%ポイント販売額を押し上げた。

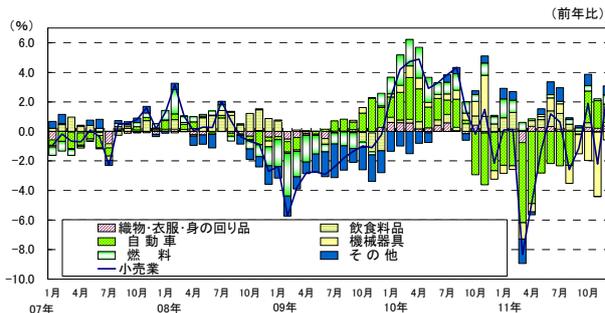
小売販売額の推移



(資料)経済産業省「商業販売統計」

(注)実質値については、消費者物価指数(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)により実質化

小売業販売額(業種別寄与度)

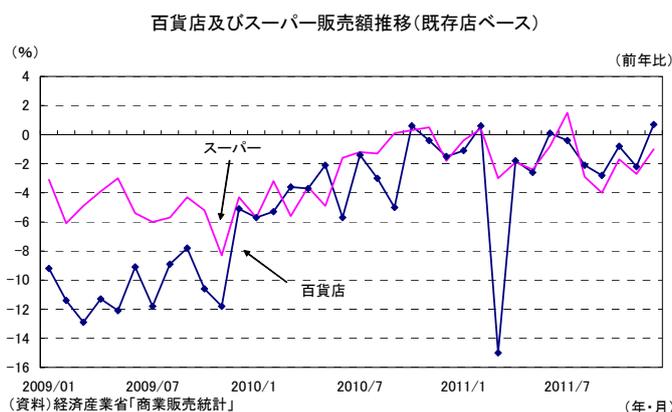


(資料)経済産業省「商業販売統計」

## 2. 百貨店は、6ヵ月ぶりに前年比で増加

11年12月の大型小売店販売額（百貨店とスーパーの合計）は、前年比▲0.4%と、5ヵ月連続の減少となった。百貨店が同0.7%と6ヵ月ぶりに前年比で増加に転じたものの、スーパーが同▲1.0%の減少となったことが販売額を押し下げた。

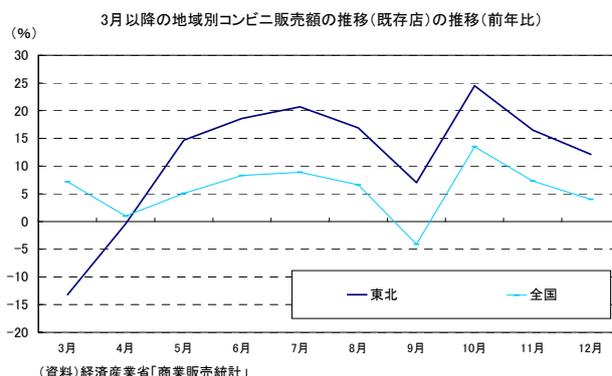
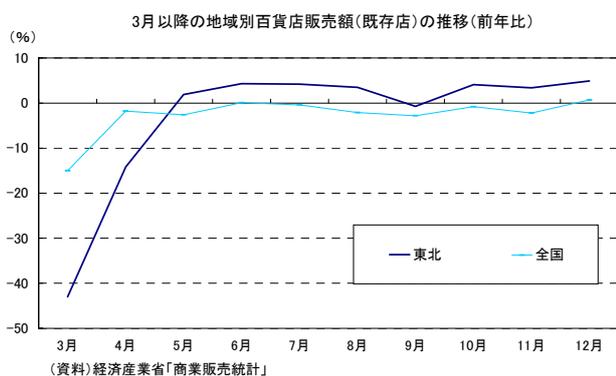
百貨店販売額（既存店）を商品別にみると、冬物衣料が好調に推移したことなどから、婦人・子供服・洋品が前年比4.3%（11月：同▲2.4%）、紳士服・洋品が前年比3.8%（11月：同▲3.6%）と、ともに増加に転じた。結果、売上高の約4割を占める衣料品全体では、前年比3.0%（11月：同▲2.6%）の大幅増加となった。また、その他でも飲食料品が前年比▲0.8%（11月：同▲0.9%）と、減少幅が縮小したことなどが、百貨店販売額のプラス転化に寄与している。



コンビニエンスストア販売額（商品販売額及びサービス売上高）は、前年比7.4%（全店ベース）と、11月（同10.5%）から増加幅が縮小したものの、引き続き好調を維持している。

商品別では、ファーストフード及び日配食品が前年比8.4%（11月：同4.3%）と、前月から増加幅が拡大した一方、非食品が前年比12.2%（11月：同25.0%）、加工食品が前年比0.1%（11月：同1.8%）となり、前月から増加幅が縮小した。

地域別の動きを見ると、百貨店販売額、コンビニ販売額ともに東北地方で全国を大きく上回る伸びが続いている。



12月の小売業は自動車、衣料品などが牽引役となり、比較的堅調な動きとなった。ただし、先行きについても海外経済の減速などを背景として国内景気の減速懸念が強まる中、雇用・所得環境の厳しい状況が続くことが予想されることから、次第に弱い動きになっていくものと考えられる。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。